

みずほマーケット・トピック(2024 年 6 月 14 日)

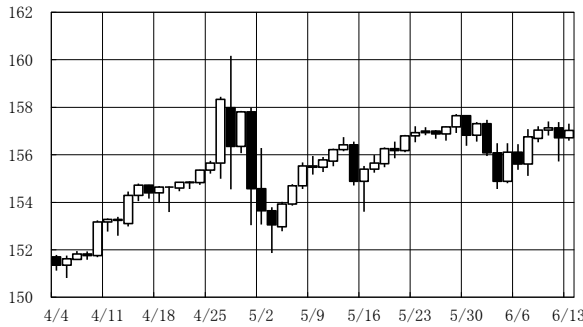
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

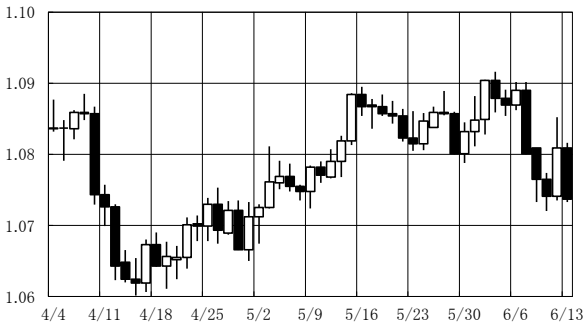
- 今週のドル/円は米インフレ統計の下振れを受け弱含む場面もあったが、円買いは続かず下に往って来い。週初10日、156.84円でオープンしたドル/円はドル買い地合いが継続し157円に乗せた。海外時間は、翌日以降に日米重要イベントを控え様子見ムードの中、157円を挟んでレンジ推移した。11日、ドル/円はドル買いに押され、157円台前半でじり高。海外時間は、フランス政局の不透明感に伴うリスク回避の動きや、米金利動向を背景に上下動するも、156円台後半から157円台前半で方向感なく推移した。12日、ドル/円は日本株の反発などを背景に、157円台前半でじり高。海外時間は、米5月消費者物価指数(CPI)の弱い結果を受けた米金利低下を背景に、一時週安値の155.73円まで急落。FOMCでは政策金利の据え置きを決定も、ドットチャートにおける2024年の利下げ回数が1回と示されると、タカ派的と捉えられ米金利が下げ幅を縮小し、156円台後半に値を戻した。13日、ドル/円はドルの買い戻しが継続し、157円台に乗せた。海外時間は、米5月生産者物価指数(PPI)や米新規失業保険申請件数の軟調な結果を受け一時156円台半ばに急落。ただ、翌日に日銀金融政策決定会合の政策決定が予定され、円安リスクが意識されてか米金利低下に反し円売りの流れとなり、157円台を回復した。本日のドル/円は、引き続き157円台前半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ばに急上昇も、その後は欧州政情不安が重しとなり反落した。週初10日、1.0779でオープンしたユーロ/ドルは、フランスを巡る政局不透明感の高まりからユーロ売りが強まり1.07台前半に下落も、ラガルドECB総裁による追加利下げに慎重な発言が下支えとなり、1.07台後半に値を戻した。11日、ユーロ/ドルは欧州株の軟調推移や独金利低下に合わせ、一時週安値の1.0720に値を下げた。12日、ユーロ/ドルは米5月CPIの弱い結果が支援材料となり一時週高値の1.0852まで急伸も、その後タカ派的なFOMCの結果を受け、1.08台前半に値を戻した。13日、ユーロ/ドルは独金利低下や欧州株の軟調推移に加え、欧州周辺国金利の対独スプレッド拡大などが嫌気され、1.07台前半に下落した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台前半で取引されている。

		前週末	今 週				
		6/7(Fri)	6/10(Mon)	6/11(Tue)	6/12(Wed)	6/13(Thu)	
ドル/円	東京9:00	155.67	156.84	157.04	157.13	156.80	
	High	157.07	157.19	157.40	157.36	157.31	
	Low	155.13	156.60	156.82	155.73	156.57	
	NY 17:00	156.72	157.04	157.15	156.71	157.03	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0891	1.0779	1.0764	1.0740	1.0812	
	High	1.0903	1.0799	1.0773	1.0852	1.0816	
	Low	1.0799	1.0733	1.0720	1.0735	1.0732	
	NY 17:00	1.0802	1.0766	1.0741	1.0809	1.0737	
ユーロ/円	東京9:00	169.60	168.96	169.12	168.81	169.64	
	High	169.96	169.20	169.41	169.54	170.13	
	Low	168.95	168.30	168.31	168.67	168.29	
	NY 17:00	169.30	168.93	168.71	169.40	168.66	
日経平均株価		38,683.93	39,038.16	39,134.79	38,876.71	38,720.47	
TOPIX		2,755.03	2,782.49	2,776.80	2,756.44	2,731.78	
NYダウ工業株30種平均		38,798.99	38,869.04	38,747.42	38,712.21	38,647.10	
NASDAQ		17,133.13	17,192.53	17,343.55	17,608.44	17,667.56	
日本10年債		0.97%	1.03%	1.02%	0.99%	0.96%	
米国10年債		4.43%	4.47%	4.40%	4.32%	4.25%	
原油価格(WTI)		75.53	77.74	77.90	78.50	78.62	
金(NY)		2,325.00	2,327.00	2,326.60	2,354.80	2,318.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、18日(火)に5月小売売上高が公表される。前回4月分の結果は、+0.0%(前月比、以下同様)と3月の+0.6%および市場予想の+0.4%を下回った。自動車と建材を除いたコアベースでは、▲0.3%と3月の+1.0%および市場予想の+0.1%を大きく下回った。非コア項目では、自動車▲0.8%と、新車販売台数は増加したが、価格の低下などにより減少に転じている。また、コアベースの内訳を見ると、家電、衣料品、食品は増加したものの、EC等無店舗、総合小売、趣味・娯楽などが減少した。2、3月分のデータも下方修正されたことも相まって、弱めとの評価が大勢であった。なお、5月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+0.3%、コアベースで+0.3%と見込んでいる。
- 本邦では、21日(金)に5月消費者物価指数(CPI)が公表予定。コアCPI(生鮮食品除く)に関し、前回4月の結果は+2.2%(前年比、以下同様)と市場予想と一致し、3月の+2.6%から伸びが鈍化した。LNGなどの資源価格上昇で都市ガス代の下落幅が縮小する中で、エネルギー価格は▲0.6%から+0.1%へ、15か月ぶりに伸びがプラスに転じた。他方、エネルギー要因も除外したコアコアCPIは+2.4%となっており、3月の+2.9%を下回った。賃金を反映しやすいサービス価格も、+1.7%と10か月ぶりの低水準となっており、基調的物価が上向いているとは言えない。先立って公表された東京5月CPIは、コアCPIが3か月ぶりに伸びが加速したことが話題を集めたが、主因はあくまでエネルギー価格上昇だった。むしろ、サービス価格は鈍化を継続させており、物価と賃金の好循環は確認できていない。なお、5月の結果(全国)に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.9%、コアベースで+2.6%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
6月14日(金)	4月鉱工業生産(速報) 4月設備稼働率 - 植田日銀総裁会見	- ユーロ圏4月貿易収支 - 米5月輸出/輸入物価指数 - 米6月ミシガン大学消費者マインド(速報)
17日(月)	4月コア機械受注	ユーロ圏1～3月期労働コスト(確報)
18日(火)	_____	- 独6月ZEW景気期待指数 - ユーロ圏5月消費者物価指数(確報) - 米5月小売売上高 - 米5月鉱工業生産
19日(水)	5月貿易収支	- ユーロ圏4月ECB経常収支 - 米6月NAHB住宅市場指数
20日(木)	_____	- 独5月生産者物価指数 - ユーロ圏6月消費者信頼感(速報) - 米5月住宅着工/建設許可件数
21日(金)	5月消費者物価指数 6月製造業/非製造業PMI(速報)	- ユーロ圏6月製造業/非製造業PMI(速報) - 米6月製造業/非製造業PMI(速報) - 米5月中古住宅販売件数

【当面の主要行事日程(2024年7月～)】

ECB政策理事会(7月18日、9月12日、10月17日)
 日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月19～20日、10月30～31日)
 FOMC(7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日)
 ジャクソンホール経済シンポジウム(8月22～24日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見直し～
2024年6月12日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の方え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結資金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしトラ」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分) 円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高景正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見直しを受けて～「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分) 週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」か「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投資のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の資金・物価情勢～妥結資金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分) 本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトラディングと資金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分) 「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～